

No.167

令和2年6月5日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



心に届く言葉



本格的に授業が再開され1週間が過ぎました。臨時休校が長期化していたこと、6月に入り急に暑さが増してきたことによって、体調を崩す生徒が複数名いましたが、登下校や授業の様子から「緩やかにリスタートすることができた」というのが率直な感想です。入学式以来登校できずにいた1年生の表情も、しだいに緊張がほぐれてきたように感じます。先生がたはどんな感想をもたれたでしょうか。

来週からは臨時休校のピハインドを取り返すべく、7時間授業が始まります。生徒たちにとっても先生がたにとってもいつもとは違う学習環境となりますが、体調管理にはくれぐれも注意しながら授業を進めていただきたいと思います。

ふだんとは違う日課が続きますので、生徒・教師の双方にストレスが溜まりやすくなることが予想されますが、こんなときこそ「**温かい言葉**」と「**寛容な態度**」で生徒たちに接してください。異変を感じたら一人で抱え込まず、チームで対応するようにしましょう。「**早期対応**」が問題を大きくしないためのキーワードです。

市教委から「教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項」という通知文が届きました。抜粋を掲載しますので、生徒を指導をするうえで十分留意するようお願いします。

- 1 通常の長期休業とは異なり、教育活動の再開時期が不確定であることから、生徒の心が不安定になることが見込まれる。
- 2 アンケート調査や個人面談を実施し、悩みを抱える生徒の早期発見・早期対応を組織的に行う。
- 3 保護者に対して、家庭における見守りを行うよう促す。
- 4 きめ細やかな健康観察やストレスチェック等により生徒の状況を的確に把握し、SCやSSW等による心理面・福祉面からの支援など、さまざまな専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整える。

制を整える。

5 学習に対する不安を軽減し、新たな不登校を生じさせない。

6 虐待と疑われる事案を発見・見聞きした場合は、関係教職員がチームとして組織的に対応する。

7 新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識を基に、差別や偏見が生じないように、生徒指導上の配慮等を十分に行う。

こんなときこそ「温かい言葉」で生徒に接するようお願いしました。5月29日付け「内外教育」のコラム「ラウンジ」に以下のような一節がありました。ぜひ参考にしてください。

教職は、子どもに発する言葉の一つ一つが問われる職業だ。子どもたちは、教職員の一言で安心し、不安にもなる。子どもたちの心に響く言葉を発していけるようになるか。自ら考え自分や他者と対話を継続することで育まれるのではないか。対話が成立するには、教職員の間には「失敗しても、できなくても、わからなくても、すべてOK」という関係性を築く努力が求められる。お互いが補い合う関係性の中で、それぞれができることを持ち寄り、相手の話を聴くことから始まっていくのである。

今、教職員自らが主体的・対話的で深い学びに向き合っている。新型コロナの収束は不透明だが、所要の条件の中で可能な教育を創造する営みで得た学びが、子どもの心へ届く言葉を生み出す。

